

東京農業大学稲花小学校

学校だより【6月23日】第51号



元気いっぱいの登校

6月9日(火)より、東京農業大学稲花小学校も学校再開となり、1年生と2年生が元気に登校してきました。最初の2日間は持参したお弁当を食べるまでの短縮、その後は、6時間授業を行いました。とはいえ、新型コロナウイルス感染症防止措置として、より少人数でのクラス編成、不用意な交差を避ける動線設定、学年別のフロア分けやトイレの指定、クラスごとの手洗い場指定にはじまり、授業を少し早めに終わらせて手洗いの指導も行いました。1年生と2年生の低学年とはいえ、「ソーシャルディスタンス」の一言でお友達との間隔を開けたり、真剣に手洗いをしたり、と、徐々に安全な行動が身についてきているようです。

学校再開の初日には、農大稲花小の教育後援会からナップザックのプレゼントがありました。サブバックにもなるので、すでに学校に持ってきている子どももいるようです。農大稲花小の「みのりマーク」のデザインが素敵で、各所に工夫のあるナップザックは、校外活動などでも活用されることでしょう。



給食も再開

お弁当を持参した2週間、マスクをはずしたらおしゃべりしないというルールは、子どもたちには辛いものにありちがいません。しかし、子どもたちはよく理解し、我慢していました。そして、6月22日(月)からは待ちに待った給食の再開。メニューは、カレーライス、キャベツのツナサラダ、牛乳、そしてフルーツカムカムジュレでした。



なお、カムカムというのは、南米ペルーのアマゾン上流で育つフトモモ科の植物、その赤い実には高濃度のビタミンCが含まれています。現地の貧しい農民の一部がコカインの原料であるコカの栽培に頼っていることを憂いた東京農業大学の卒業生が、その代替作物として、カムカムを普及してきたというストーリーがあるものです。

さて、初日の給食。普段とは違い、新型コロナウイルス感染防止措置の一環として、配膳は教員が行いました。配膳されるまでの間、子どもたちはじっと我慢です。すべての教室に配膳が終わると、マスク越しに小さな声での「いただきます!」。同じく感染防止措

置としてしばらくは、楽しみな「お替り」も無しです。しかし、嬉しそうな子どもたちの表情、そして高い完食率から、給食が順調に再開できたことを喜んでいきます。

2020 年度第 2 回学校説明会開催

2020 年度第 2 回学校説明会を、6 月 20 日(土)、オンライン(Zoom ウェビナー)で実施しました。5 月に行われた Zoom 保護者会も、本校にとって初めての企画でしたが、このオンラインによる学校説明会も初めての企画です。9 時から 1 時間ずつ 3 回の 3 部制とし、あらかじめ miraicompass でのお申し込み制としたこのオンラインによる学校説明会ですが、おかげさまで、各部ともほぼ満席で、合計では 1,000 組以上の参加者がありました。

オンライン学校説明会では、まず校長から学校の特色について説明をした後、教頭から入学試験についてより詳しい説明をいたしました。配信中、一部不備がありご迷惑をおかけしましたが、今後も、オンラインによる学校説明会、あるいは、オンラインによる学校紹介を続けてまいります。また、miraicompass でのお申込者には、当日の録画の一部を改めてお送りする予定です。当日ご参加いただいた皆様には、御礼申し上げます。

本来なら受験をお考えのご家族とお子様には本校に足を運んでいただき、学校の様子を見て、感じていただきたいと思います。とはいえ、新型コロナウイルス感染防止を第一に考えると、オンラインの活用はこれからもますます重要になってくることでしょう。本校でも引き続き、本校の理念や教育の実際を、よりわかりやすく発信していくことにいたします。

段階的な平常化

6 月 22 日(月)からは図書室の利用もはじまり、子どもたちはソーシャル(フィジカル)ディスタンスを確保しながら、本に没頭しています。雨の日の体育の時間は、十分に換気をした体育館で、ヨガを習いました。



そして、6 月 29 日(月)からは、クラス編成を変更し本来の 2 組制とする予定で、準備を進めています。教室内の椅子・机の配置、換気、児童の動線ほか新型コロナウイルス感染防止には最大限の努力を続けていきます。

今後も、「新型コロナウイルスとともに生きる社会」における学校教育の構築が求められています。本校でも、子どもたちの感染防止を大前提に、子どもたちのこころとからだの健やかな成長そして学力の定着のための指導を続けてまいります。保護者の皆様にも、引き続きのご協力をお願いいたします。

校長 夏秋 啓子